

平成23年度 全国女性委員会議報告

○期日 平成23年2月11日【土】

○場所 岸記念体育館（東京）

○出席者 尼崎恵美

○会議報告

- ・日本陸連より挨拶
- ・日本陸連女性委員理事紹介
- ・女性委員会の目的、これからの在り方についての説明
- ・東北地方の女性理事より御礼のことば
→仙台の銘菓をいただきました。お心遣いありがとうございます。
- ・鳥取陸上競技協会の歴史（15年のあゆみ）の紹介
- ・講演

「組織のリーダーから見た女性の活躍」 京都陸上競技協会会長 田中セツ子さん
(旧姓：大嶋セツ子さん)

- 1 日本陸連及び京都陸協の体制、女性役員の参加
(全国高校駅伝や都道府県対抗女子駅伝などを例に)
- 2 女性指導者の選手育成と役割について
 - ① いつも夢や目標、目的をもとう
 - ② 社会人になってから努力（勉強）しよう
 - ③ 幅広く友達（男性・女性）をもとう
- 3 女性の感性をいかす取組について

・体験発表

「陸上競技指導者として歩んできた道」 宮崎県女性委員長
宮崎市立大淀中学校教諭 大山真由美先生

女性が指導者として続けていくために

- ・そのときに与えられたことをきちんとやる
- ・部活動で成果をあげるためには、まず授業
- ・サポーターをつくる
- ・指導力の根本は「目」 ・しなやかな身体、やわらかい頭

※大山先生は、今年度も2名全国で入賞させ、駅伝も全国大会出場を果たしています。

・地域別意見交換会（ブロックごとに協議）

○女性委員会会議に参加して

今回の女性委員会会議は、上記にも報告として記しているように、講話があり、その後にブロック研修という形でした。私が女性委員会会議に参加した3回のうち、今年度がはじめてだったので（これまではずっとブロック別にあったようである）、悩みを共有できたり、相談にのっていただいたり、他県の情報を聞くこともでき嬉しく思います。また、全国からきている方々を知ることができ、名刺交換しながら今後の取組についての助言もいただけるようになり、本当に今会議に出席してよかったと思いました。

まず、国体のときに小松女性委員長（日本陸連の女性委員長）に、女性部をどうしていけばよいか、みんな悩んでやってきたこと、どのような活動をすべきなのか、どういう体制を組むべきなのかを相談したことがきっかけか、今年の全国女性委員会会議は、事前アンケートを日本陸連側が送付し、各県の課題や取組などを47県全女性部長が記入した上で提出し、冊子として各県に配布、これをもとに女性委員会会議で協議するというながれをとってくださいました。それが本当に私にとっては嬉しく、感謝でいっぱいです。

歴代の女性部長はじめ連絡委員で頑張ってきた女性理事は本県で6、7名いらっしゃいます。平成14年度に全国25番目に長崎県で女性部が設立されたものの、ずっと今日にいたるまで、女性部長はじめ長崎県の陸上に携わってくださる女性は悩んだのではないのでしょうか。本当に必要なのか、何をいったいすべきなのか、何を最優先させるべきなのか。私自身今年度より女性部長をしています、空回りするばかりでした。国体まであと2年です。情報伝達、報告を密にし、「開かれた組織」づくりに徹しながら、池下女性部長が一生懸命みんなを大事にしながら出した方向性「～みんなが無理をしない活動を～」を今後も大切にして、貢献していけたらと思います。